

## 自閉症児を包摂する独自の混合教育を実践する幼稚園

A kindergarten that practices a unique Inclusive Education System that includes autistic children

○村瀬達也\*, 古賀政好\*\*  
 Tatsuya MURASE and Masayoshi KOGA

"Inclusive Education System", which has continued for more than 50 years since its establishment, allows autistic children and healthy children to live in the same building and feel each other's existence on a daily basis. Therefore it makes it possible to get involved without distinction while respecting each individuality. Also, thinking that self-affirmation is the foundation of life, liking oneself leads to feelings of compassion for the other person. Care for autistic children is well supported by the professional care of individual teachers.

Keywords : Kindergarten, Autistic Children, Inclusive Education System

キーワード：幼稚園，自閉症児，インクルーシブ教育

### 1. 施設概要 (表1)

施設名：武蔵野東第一・第二幼稚園

運営者：学校法人武蔵野東学園

開設年：1965年4月1日

育まれる力：「私が好き あなたが好き」

#### ■第一幼稚園

- 所在地：東京都武蔵野市関前 3-29-8
- 建設年：1965年（最終改修年：2019年）
- 主な改修歴：

2006年9月 リノベーション

2019年8月 園庭改修（築山設置，砂場増設，植栽整備等）

- 敷地面積：1,556㎡
- 延床面積：1,204㎡
- 階数：2階建て
- 収容人数：180名

#### ■第二幼稚園

- 所在地：東京都武蔵野市関前 3-37-10
  - 建設年：1977年（最終改修年：2017年）
  - 主な改修歴：
- 2008年8月 自閉症児クラスリノベーション  
 2014年8月 園庭改修
- 敷地面積：2,808㎡
  - 延床面積：2,132㎡
  - 階数：2階建て（一部3階）
  - 収容人数：400名

表1 施設概要

|               |   |                   |  |
|---------------|---|-------------------|--|
| 学校            | 武蔵野東第一・第二幼稚園                                      | 在籍者数<br>(2021.12) | 560名<br>年少 160名<br>年中 200名・年長 200名   |
| 所在地           | 東京都武蔵野市関前   | うち<br>自閉症児        | 50名<br>年少 10名<br>年中 20名・年長 20名   |
| 開設年           | 1965年   | クラス数              | 年少 健常児:25人×7クラス<br>自閉症児:10人×1クラス<br>年中 健常児:30人×6クラス<br>自閉症児:10人×2クラス<br>年長 健常児:30人×6クラス<br>自閉症児:10人×2クラス |
| 建設年           | 第一幼稚園 1965年<br>(年少利用)<br>第二幼稚園 1977年<br>(年中・年長利用) | 担任数               | 健常児：1クラス1名<br>自閉症児：1クラス2名  |
| 育まれる力         | 「私が好き あなたが好き」                                     | 職員数               | 69名  |
| 園の理念          | 「みんななかよし」<br>「すなおなこころ」<br>「こんきのよき」                |                   |  |
| 自閉症児の<br>受入基準 | 自閉症スペクトラムの<br>診断書の有無                              |                   |  |
| 通園方法          | 通園バス・送り迎え   |                   |  |

\* 東京電機大学大学院未来科学研究科建築学専攻

\*\* (株)竹中工務店/東京電機大学非常勤講師・博士(工学)

\* Graduate Student, Science and Technology for Future Life, Tokyo Denki Univ.

\*\* Takenaka Corporation / Part-time lecturer, Dept. of Arch., School of Science and Tech. for Future Life, Tokyo Denki Univ., Dr. Eng.

## 2. 設立と発展経緯（表2）

### 2.1 武蔵野東学園について

武蔵野東学園は1965年に武蔵野東幼稚園を開園した当時、入園を希望した園児の中に自閉傾向のこどもがおり、健常児と自閉症児を分け隔てなく教育する「混合教育」と日々の保育を通して自閉症児を教育する「生活療法」を始めた。その後、保護者から卒園後も武蔵野東幼稚園のように教育して欲しいという要望が上がったため、武蔵野東小学校を1977年に開校した。そして同理念のもと中学校を1983年に、高等専修学校を1986年に開校した。このように、武蔵野東学園は2007年の本邦における法制度改定による特別支援教育やインクルーシブ教育の推進に先駆けて自閉症児への教育を試み、「混合教育」の理念は現在も変わることなく50年以上にわたって続いている<sup>1)</sup>。

### 2.2 武蔵野東幼稚園について

武蔵野東幼稚園は「心と身体の健やかな子供を育てたい」という親の願いを込めて1964年に北原キヨによって設立された。開園時に自閉傾向のあるこどもを受け入れ、自閉症児も健常児と同様に成長への可能性があると信じ、日々寝食をともにして保育にあたった。その情熱と経験から武蔵野東幼稚園独自の「生活療法」が生み出された。以来、教育効果が認められ、全国から自閉症児とその保護者が集まるようになった<sup>2)</sup>。開



図1 敷地関係（Google map より）



図2 第一幼稚園 施設マップ

園当時、現在の第一幼稚園の敷地に「武蔵野東幼稚園」を設置し、1977年に現在の第二幼稚園の敷地に「武蔵野東関前幼稚園」が開設した。しかし同じ理念の幼稚園が近距離（図1）に2つあることでどちらの幼稚園に通わせればよいのか保護者が迷うことから、2つの幼稚園を第一幼稚園・第二幼稚園として統合された。

## 3. 武蔵野東幼稚園の運営概要と空間構成

### 3.1 利用園児について

■クラス数 武蔵野東幼稚園には560名の園児が在籍し、第一幼稚園（図2）では年少8クラス（1クラスが自閉症児クラス）160名の園児が生活し、第二幼稚園（図3）は年中8クラス（2クラスが自閉症児クラス）200名、年長8クラス（2クラスが自閉症児クラス）200名の計400名の園児が生活している。

■クラス編成 健常児クラスの人数は開園当時からの実践経験から園児への刺激が適量となるように年少を25名前後、年中・年長を30名前後で編成している。クラスには1名の担任の他に複数の教員が関わり、

表2 武蔵野東学園・幼稚園の年表

| 年代   | 沿革  |
|------|---|
| 1964 | 学校法人 武蔵野東幼稚園 認可   |
| 1965 | 武蔵野東幼稚園（現：武蔵野東第一幼稚園）開園  |
| 1973 | 文部省研究機関の指定  |
| 1977 | 武蔵野東関前幼稚園（現：武蔵野東第二幼稚園）開園  |
|      | 武蔵野東小学校 開校  |
| 1978 | 武蔵野東第三幼稚園 開園（1986年3月廃園）   |
| 1983 | 武蔵野東中学校 開校  |
| 1985 | 武蔵野東幼稚園を武蔵野東第一幼稚園に<br>武蔵野東関前幼稚園を武蔵野東第二幼稚園に改称<br>海外からの自閉症児のために国際学級を新設（1987年ボストン東スクールへ移設） |
| 1986 | 武蔵野東技能高等専修学校 開校   |
| 1987 | ボストン東スクール 開校  |
| 1990 | 武蔵野市 私立幼稚園子育て支援地域開放事業 開始  |
| 1998 | 預かり保育「ひがしっ子クラブ」開始   |
| 2004 | 武蔵野東第二幼稚園耐震工事実施   |
| 2006 | 武蔵野東第一幼稚園リノベーション完成  |
| 2008 | 武蔵野東第二幼稚園自閉症児クラスリノベーション   |
| 2012 | 武蔵野東第一幼稚園遊具リニューアル完成   |
| 2014 | 武蔵野東第二幼稚園園庭改修工事完了（学年創立50周年記念事業）   |
| 2017 | 武蔵野東第二幼稚園ひまわり階段トプライトリニューアル  |
| 2018 | 武蔵野東第一幼稚園園庭水飲み場リニューアル   |
| 2019 | 武蔵野東第一幼稚園園庭改修工事完了   |

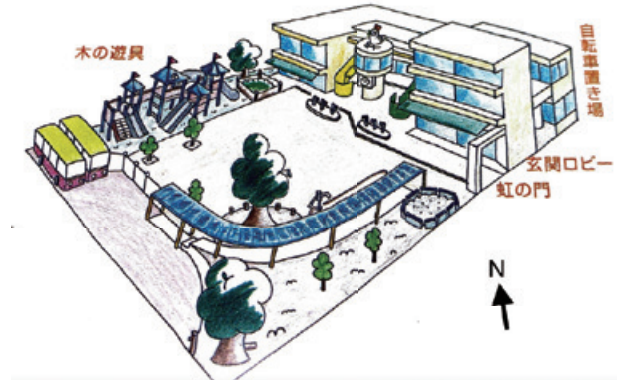


図3 第二幼稚園 施設マップ

その時の状況に応じてきめ細かに一人ひとりの園児に対応している。毎年ランダムにクラスメンバーを変え、新しい友達と出会う機会をつくっている。また自閉症児クラスは10名前後で編成し、自閉症児の受け入れは自閉症スペクトラムの診断書の有無を基準とする。

**■通園方法** 保護者による送迎か通園バスである。通園バスは隣接した市区を対象に7台14コースあり、市区外からの通園を希望する場合は市区内の駅等からバスに乗ることができる。

幼稚園と小学校の教育方針は一貫性を持ち、推薦制度はないが3割の園児が武蔵野東小学校に進学する。

### 3.2 武蔵野東幼稚園の運営の特色／特徴

#### 1) 育まれる力「私が好き あなたが好き」<sup>3)</sup>

『自己肯定感は人生の土台となる。「ありのままの自分」と「向上する自分」を好きになり、自分に自信が持てるこどもを育む。幼児期に大事にしなければならないのは、一人一人の生きる力であり、その中心となる「自分の心」をしっかりと育むこと。

「自分が好き」は「友達が好き」に繋がる。いろいろな個性のある健常児と自閉症児とが、ともに遊び、生活することを通じて「相手を思いやる気持ち」や「かかわり方を工夫する知恵」が自然と培われていく。』

#### 2) 園の理念<sup>3)</sup>

「みんななかよし すなおなこころ こんきのよさ」

**■みんななかよし** いろいろな個性の友達とかかわり、つながり合うことが心地よく、みんなそれぞれ違うことがすてきであると感じるこどもを育む。

**■すなおなこころ** よいことやいけないことなどの道徳的な価値観や「すごい」「すてき」「いいね」など、良さを受け止める柔軟な感性、「照れずに自分の力を出し切る」というまっすぐな心、そして自ら四季折々の暮らしを楽しみ豊かにしていこうとする感性を育む。

**■こんきのよさ** 向上する自分が嬉しくて、学びそのものが楽しいと思える体験を通して、興味が継続し、夢中や熱中が持続していくことを大事にしている。最後までやり遂げる体験は、自信と意欲につながる。

#### 3) 混合教育<sup>4)</sup>

健常児と自閉症児がともに過ごし、分け隔てない生活でゆっくりと時間をかけて互いに認め合う友達関係を築く。園児は日々の生活や遊びの中で、葛藤や試行錯誤、共感を繰り返しながら友達と関わる力を培い、コミュニケーションが取りづらいといわれる自閉症児は友達といることで楽しいと思えるように育つ。このともに育ち合う教育を「混合教育」として創立以来50年に渡り実践を深めてきた。文部科学省では「インクルーシブ教育」を推進しており、武蔵野東幼稚園はインクルーシブ教育システム構築モデル事業として研究委託されていた。(平成25年度～平成27年度)

### 3.3 1日の活動プログラムと活動場所(図4)

#### 1) 活動プログラム

武蔵野東幼稚園では決まったプログラムがなく、前日に教員同士で話し合い活動を定める。教員はアフオーダンスの考え方を意識し、園児たちが主体的に遊びたくなる環境を考え、園児の近くに遊びを用意して自然と活動を促すようにしている。活動で使用する場所は保育室内や保育室前の廊下、ホール、園庭など、園児たちは大人の目が行き届いている安心安全な環境の中、主体的に様々な遊びを伸び伸びと展開している。

#### 2) 活動場所

自閉症児クラスの保育室は集中力が分散しないように健常児クラスの4分の1程度の大きさで、保育室の前に体を動かせるスペースがある。ひがしっこクラブ(預かり保育)では年中も年長もホールに集まり過ごすため遊びの中で関わりが生まれることがある。また行

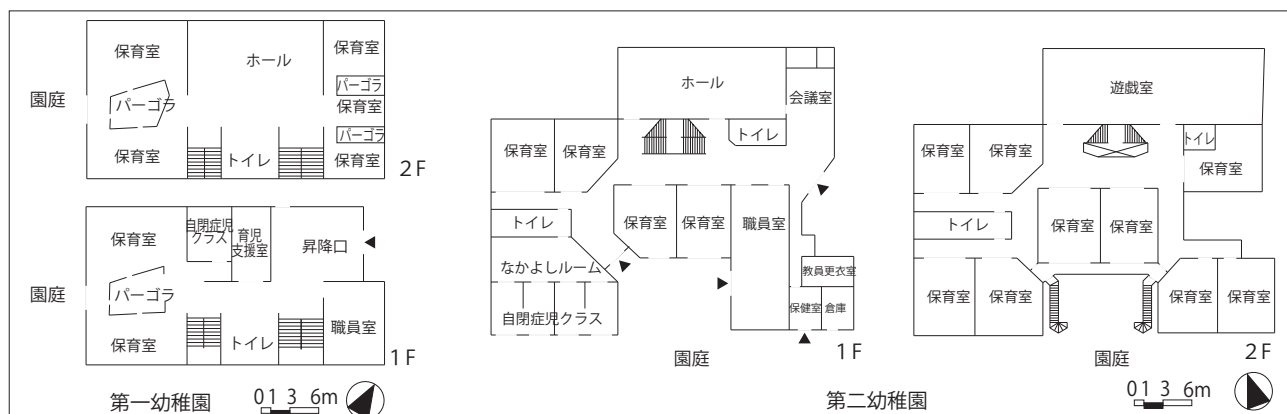


図4 第一・第二幼稚園 平面図



事等で上の学年の活動を見ることで憧れを抱くことや1年後の自分を想像するきっかけとなる。園庭では「自然とかかわる」「科学する」「運動する」ことを通して必要なことを体験し、学べるように環境を整えている。

#### 4. 特徴的な空間や設え

##### 4.1 第一幼稚園 (写真1～16)

■保育室・パーゴラ (写真5～11) 各保育室は2006年の改修で壁を取り払いパーゴラでエリアを分けている。パーゴラでは園児が絵本を読んだり、園

児の作品を飾り付けられる創造的なスペースである。パーゴラは園児目線では視線が遮られるため「こもり感」があるが、大人目線では内部が見えて見守りができる高さに設計されている。また園内の家具は園舎の雰囲気に合わせてトータルにデザインされている。

■自閉症児クラスの保育室 (写真12～13) 保育室の前に溜まりのスペースを設けて保育室内外に行く際のクッションとして段階的に空間と活動を切り替えられるようにしている。入園してすぐの時期は保育室内の情報量を少なくして園児への負担を調節している。

園庭が前面道路に面していないため、セキュリティ面に優れる。



写真1 第一幼稚園 外観

創造的なスペースになるように工夫された「出会いと遊びの場」。幼児の好きな「こもり感」を味わえる。



写真5 第一幼稚園 パーゴラ

広々とした昇降口。自動ドアはセキュリティのため室内側からしか開かないようになっている。



写真2 第一幼稚園 昇降口

場所によって広さはさまざま天井には園児の作品が飾られている。



写真6 第一幼稚園 パーゴラ

帰りのバスを待っている際に座るイス。下駄箱の下に収納できるように計画されている。



写真3 第一幼稚園 昇降口

パーゴラの壁はロッカーとして利用される。



写真7 第一幼稚園 パーゴラ

帰りのバスを待っている際に読み聞かせをする絵本。



写真4 第一幼稚園 昇降口

園児の目線だと中に入れば籠ることができる。



写真8 第一幼稚園 パーゴラ

■トイレ（写真14） 教員が見守りできるオープンなトイレとし、扉での怪我がないように設えている。

■園庭（写真15） 季節を感じられる木々に囲まれた緑豊かな園庭で、中央にシンボルツリーの桂の木がある。砂場が2箇所あり、心地よく遊べるように日よけタープを設置している。築山の周囲にはウッドチップ、思い切り身体を動かせる場にはゴムチップが敷かれ、水はけや怪我防止に配慮されている。

#### 4.2 第二幼稚園（写真17～40）

■自閉症児クラスの保育室（写真21～24） 2部屋

を壁で区切らず可動式の棚で仕切ること小さな空間で利用したり、広い空間で利用したりと使い分けができるようにしている。また壁の上部をガラスにすることで園児の視線を遮りつつ、教員が隣のクラスの様子が見えるよう工夫している。黑板周りではあえて情報を減らすような操作をせず、必要な情報を自分で選択できるように成長を促している。

■なかよしルーム（自閉症児クラスの保育室前）（写真25～26） 自閉症児の保育室前にある空間で、健常児が興味を持ちそうな物を置き、自然と入ってくるよ

遊び道具を片付ける時はこの写真を参考に。数の学びや片付けを誘導し、自発的に片付けを促している。



写真9 第一幼稚園 アフォーダンス

写真右の壁は開閉式で開放して育児支援室と繋げることがもできる。



写真13 第一幼稚園 自閉症児クラスの保育室

壁で囲まれることがなくオープンになっている。声の問題は特にないという。



写真10 第一幼稚園 健常児クラスの保育室

園児の視線は仕切られ、教員からは園児の様子が見えるような高さになっている。



写真14 第一幼稚園 トイレ

年中長児クラスの保育室と比べると情報の量が少ない。自閉症児クラスと同様に時期や年齢に応じて教員が調節する。



写真11 第一幼稚園 健常児クラスの保育室

遊具の他に築山をつくるなど園児が目一杯身体を動かせるような工夫がされている。



写真15 第一幼稚園 園庭

自閉症児クラスの前に空間を切り替えるクッションとなる溜まりのスペースがある。



写真12 第一幼稚園 自閉症児クラスの保育室

預かり保育の時間は園庭かここで過ごす。



写真16 第一幼稚園 ホール



うに促している。自閉症児がパニックを起こした際に気分を落ち着かせる場所として使われることもある。

■待ち位置サイン（写真27） 新型コロナウイルスでの距離の確保のために設え、トイレに行く際やクラス移動の際に用いている。数字やイラストがわかりやすく園児が自発的に並べるようになった。

■交流クラスのバッチ（写真28） 自閉症児が健常児クラスの活動に参加する際に健常児クラスと同じバッチをつけることで帰属意識や仲間意識を高める。教員は自閉症児が年長になると一人ひとりの状態をみ

ながら健常児との交流頻度を増やすように促す。

■廊下の本棚（写真29～30） 図書室を無くし、廊下や保育室内に本棚を設置して本に触れる機会を設けている。廊下の本棚には園児から人気がある本が置かれ、各保育室内の本棚には各クラスの園児が興味を持ちそうな本を各教員が選定して置いている。

■園庭（写真31～32） 四季折々の木々が植えられ季節の移り変わりを感じることができる。遊具／走り回る／水遊びする／自然と触れ合うゾーンが明確に分けられ、園児の活動を促す。花壇はガーデニングクラ

セキュリティ面から、園児が園庭から敷地外にすぐに出られないように、また外部の人が園庭を覗き込みにくいようになっている。



写真17 第二幼稚園 外観

送り迎えて通園する園児はここから入る。バスと入口を分けることで安全を確保している。



写真18 第二幼稚園 徒歩・自転車通学用入口

バス通園の園児はこのアプローチを通過して園舎に入る。



写真19 第二幼稚園 バス通学用入口

教員や外部の方はこの入り口から入る。外部者と園児の入り口を分けることでセキュリティ面の強化をしている。



写真20 第二幼稚園 教員・外部者用入口

保育室から直接園庭に出られるようになっている。



写真21 第二幼稚園 自閉症児クラスの保育室

棚や壁で仕切られているが大人の目線では隣の保育室の様子も確認できる。



写真22 第一幼稚園 自閉症児クラスの保育室

活動によっては可動式の棚を動かし、一つの保育室としての利用もできる。



写真23 第二幼稚園 自閉症児クラスの保育室

年少の保育室の情報量より多くなっている。写真や文字で1日の流れや準備の流れなど理解することができる。



写真24 第二幼稚園 自閉症児クラスの保育室



ブの保護者に整備をしてもらっている。園児が塀を飛び越えて外に出ないように塀を高くするなど安全面に配慮しつつ伸び伸びと遊べる園庭をつくっている。園児は自由に遊ぶが、教員が介入して各園児が苦手なことでも経験できるように遊びを促すこともある。

## 5. 自閉症児への療育について

自閉症児クラスの保育室は隣接するなかよしルーム、その向こう側の廊下を挟んだ健常児クラスの保育室と段階的につながる配置としている。なかよしルー

ムを健常児クラスとのバッファー（ほどよい距離感、安定する距離感、関係性を深めるための安定する場）として位置づけることで交流の機会を調整できるようにしている。自閉症児がパニックを起こすのは不安や訴えたいことがあるため、空いている保育室や保育室前のなかよしルームなど、それぞれの気持ちが安定する場所に行き、空気感を変えて話を聞く。過保護にしすぎると社会に出てからのギャップが生じる可能性があると考え、あえてカームダウンスペース等を設けずに場所を変えることと、これまでの混合教育の実践に基

自閉症児クラスの保育室前にある空間を切り替えるクッションとなる空間。



写真 25 第二幼稚園 なかよしルーム

廊下にある本棚には本を元の場所に戻せるような工夫がされている。これによって園児自身が自発的に片付けをするようになる。



写真 29 第二幼稚園 廊下の本棚

年中・年長の自閉症児クラスが4クラス並ぶなかよしルーム。複数クラスで活動を行うことができる。



写真 26 第二幼稚園 なかよしルーム

保育室内の本棚にはクラスの園児が興味を持ちそうな内容の本を教員が選定している。



写真 30 第二幼稚園 保育室内の本棚

数字やイラストがあると分かりやすく園児も自発的に並ぶという。



写真 27 第二幼稚園 待ち位置のサイン

通園と遊びの場の分離など安全面も考えられている。



写真 31 第二幼稚園 園庭

自閉症児が健常児クラスに参加する際は健常児クラスと同じバッジをつける。表には名前が書いてある。



写真 28 第二幼稚園 交流クラスのバッジ

大きな遊具やツリーハウスの他にも、様々な遊びが充実し、自然とも関わられるようになっている。



写真 32 第二幼稚園 園庭



づく教員の手厚い専門的ケアで、自閉症児の将来的な社会自立を目指している。

## 謝辞

見学を受け入れて頂きました武蔵野東幼稚園の関係者の皆様に心より御礼申し上げます。本報告は科学研究費補助金（基盤C）：オープンシステム型保育／教育と特別支援との両立を実現する包摂型環境設計の研究（研究代表者 古賀政好，課題番号 19K04796，2019－2021）の一環として行われました。

## 参考文献

- 1) 村瀬達也・古賀政好・山田あすか：自閉症児クラスを有する小学校の発展経緯と児童の学習と交流活動の実態
- 2) 武蔵野東第一・第二幼稚園 Guidebook- 本園の案内- <<https://www.musashino-higashi.org/musashino-higashi-yg/book.html>> (参照 2022.03.03)
- 3) 学校法人武蔵野東学園 武蔵野東第一幼稚園 武蔵野東第二幼稚園 HP, <<https://www.musashino-higashi.org/yotien.php>> (参照 2022.03.03)
- 4) 武蔵野東第一・第二幼稚園 Conceptbook- 本園の教育- <<https://www.musashino-higashi.org/musashino-higashi-yc/book.html>> (参照 2022.03.03)

自閉症児クラスの保育室の約3倍ほどの広さ。25～30名ほどの園児が生活する。



写真 33 第二幼稚園 健常児クラスの保育室前

設立当時から園内の床には矢印があり、各保育室へと繋がっている。



写真 37 第二幼稚園 1階廊下

保育室によって設えが違ってくる。例) おままごとセットがある



写真 34 第二幼稚園 健常児クラスの保育室

遊んでいる声や存在を感じられるため、上下階で隔たりができる事がない。



写真 38 第二幼稚園 吹き抜け階段

さまざまな工事ができるようにたくさんの材料がある。クリアケースに入っているため中身を取り出さなくてもわかりやすい。



写真 35 第二幼稚園 遊戯室

外階段があるので2階の保育室からもすぐに園庭に出られる。屋根があるため雨の日でも半屋外空間で活動ができる。



写真 39 第二幼稚園 外階段

発表会の練習など音を出したり、動きを伴う活動で用いられる。



写真 36 第二幼稚園 ホール

改修によって、保護者が園庭から職員室を通らなくても園舎に入ることができるようになった。

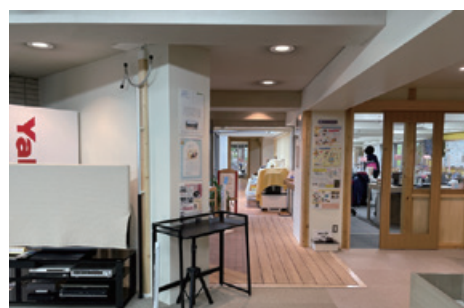


写真 40 第二幼稚園 園庭からの移動動線